

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	タイムこどもデイサービスかのん		
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月4日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年2月21日 ～ 2025年3月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「多様性＝一人ひとり違うということ」「自己創出力＝自ら変わるということ」「関係性＝関わり合うということ」この3つを大切に、スタッフは丸となってサポート(支援)しています。	毎日のミーティング・かのん会議で職員全員でアセスメントと行い、利用者一人ひとりに必要な支援ができるように話し合い、毎日の支援・活動につなげています。	毎月の合同会議でのミニ研修、年に数回の内部・外部研修を受けて、職員一人ひとりのスキルアップを目指しています。
2	高等部の利用者が多いので、卒業後を見据える支援を行っています。	保護者と面談だけでなく常時いつでもご相談に応じ、一方的な支援内容にならないように信頼関係の構築に努めています。	一人ひとりの利用者に対して、本人にあった支援を心がけています。また、活動も本人の長所・特徴をいかしたプログラムが取り入れられるように、音楽や絵画・工作、園芸の先生にも来ていただいています。
3	職員も利用者も、明るく楽しく毎日が過ごせる事業所です。	挨拶を励行し、明るい雰囲気作りができるように、職員も明るく笑顔で声掛けをしています。また、明るく風通しの良い職場環境を作るために、メンタルヘルス研修、アンガーマネジメント研修、ストレスチェック等をも取り組んでいます。	職員のモチベーションが全体の雰囲気に反映されると思うので、今後も職員が意見を出しやすい風通しの良い職場環境作りを目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の放課後等デイサービスとの交流や地域の他の子どもたちと活動する機会が、以前に比べ減りました。	コロナ流行で以前のような交流が減ったり、人と人との交流が難しくなった社会の変化や状況に起因することが大きいと思います。	以前はもう少し地域交流がありましたが、最近の社会状況から「知らない人とは遊ばない」などの考えが定着し、関わりが減りましたが、今後はもう少し積極的に関わっていくようにしたいと思います。
2	父母会・保護者会等での保護者同士の交流が少ない。	コロナ流行や保護者の都合（働く母親が増えた）・関係性などを考えて、最近少し尻すぼみになっていました。	積極的に工夫して、定期的に保護者会を開いていきたいと思っています。
3	現在、保護者や家族向けの研修等は実施できていません。	各種マニュアル（事故防止、緊急時対応、BCP、感染症対応、災害対応、虐待防止等）の周知徹底は保護者にも行わなくてはならないが、書面の掲示だけで直接の研修ができていない。	保護者にも面談や保護者会、保護者向け研修会等で周知徹底を図ってきたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
タイムこどもデイサービスかんの		2025年 3月 28日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		4部屋をうまく使うようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		多いと思う時がある。	住所が様々なため、送迎スタッフの確保が課題である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		部屋の段差は、可能なところは段差スロープを取り付けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日掃除、消毒をしている。	個々の利用者の特性を考えて、利用者の個々の活動に合わせた配置を行っていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動により、4部屋をうまく使うようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		年度当初に、事業所および職員個人の目標を出し合って、年度末には振り返りを行っている。	年度途中でも行っていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		次年度に活かせるようにしている。	年度途中での意向調査も行っていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日にミーティング、月2回のかのん会議、月1回の合同会議にて皆さんから意見をだしてもらい業務改善につなげている。	送迎に関する課題が多い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人第三者委員がやっていますが、外部評価もやるようにしていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月の合同会議でミニ研修を、年2～3回は外部講師の全体研修を行っている。また、強度行動障害者資格研修を受講できる機会を確保している。	大体の人は参加しているが、他事業所と兼務の人の中には参加できないこともあるので、動画視聴や個別研修も試みている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			※3月末までに公表することになっており、現在各ディにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPに公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		計画通りに行かないこともありますが、概ねできていると思う。	子どもと保護者のニーズが異なるときの調整の仕方が難しい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全員参加で行っている。	全員参加が原則だが、参加できなかった人への報連相の仕組みを考えていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		常に個別支援計画書を頭に入れて、それに沿った支援ができるようにかのん会議等で確認している。	支援計画書通りにいかない方への支援会議を行い、検証・達成のための支援方法の共有が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		現在は、相談支援の様式を用いている。	今後独自のものを作成していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		年度当初にガイドライン・5領域の学習会を行い、新しい様式での個別支援計画書を使ってねらい・支援内容の共有を行った。	「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」については、まだまだ面談等での保護者との調整や学校・医療機関との連携が必要である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		合同会議、かのん会議等で、チームで立案している。	※3月末までに公表することになっており、現在各ディにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPに公表します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		長期休みに関しては、なるべく普段できないプログラムを踏襲している。	平日のクラブ活動がある日は帰りが遅くなり、なかなか色々な活動に取り組むことが難しい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	専門支援を行うことにより個別支援の活動は広がった。また、集団活動も色々な観点から活動できるように工夫している。	専門支援の幅を広げたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	30分、必ずミーティングを行い情報の共有を行っている。	長期休みのときの送迎がばらばらになるため、全員が揃うことが難しい日もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	送迎に出る人が多いため、全員で振り返ることは難しいが、送迎後常勤だけでは行っていて、必要なことは次の日のミーティングで共有している。	週2日勤務の方に情報が伝えられるのが遅くなるので、重要なことは早く伝達できるように工夫する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	常勤が毎日、個々の記録をとっており、次の日のミーティングにつなげている。	日々の記録は必ず読みサインするように徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に一度、モニタリングを会議で行っている。	半年以外でも、必要に応じモニタリングを行っていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	4つの基本活動を組み合わせた支援ができるようにプログラムを考えている。	地域交流の機械の提供がコロナ後少なくとも経ってしまったので、多面から考えていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	絵カードや写真を使いながら自己選択できる機会、多数決で行き先を決める機会等を作っている。	支援員が「待つ」姿勢が大切である。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	主に管理者と児童発達支援管理責任者が出席している。	会議の報告を行っているが、全員に浸透しているか？検証が必要である。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	学校や医療機関とは必要に応じ行っている。	学校によっては、踏み込んだ内容までいかないところがある。また、医療機関との連携もまだまだ不十分である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校との基本的情報共有は、連絡会やメール・電話等で調整できている。	支援学級の利用者がいなくて3つの特別支援学校だけの調整で済んでいるが、今後学校数が増えた時が課題になる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	中高生が中心の事業所なので、就学前のところとは連携していない。小学生時の放課後デイや福祉サービスとは情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	実習中の事業所、卒業後の事業所と連携しようとしているが、事業所によってはあまり連携の必要性を感じていない事業所もある。	お互い情報共有できるようつながりを深めていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	相談支援基幹センターとは連携を図って研修を受けたり、助言もいただけるケースがある。	今後も相談支援基幹センターや発達障害者センター「まほろば」とのつながりを活かしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	なかなか難しいが、公園で遊ぶ機会はある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会からの連絡があるときは出席している。	今後も要請があれば参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時以外でも面談・電話や訪問等で共通理解を図っている。	外国の保護者な場合、言葉がうまく伝わらないことが多々あり、課題になっている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	現在ニーズがあるかは定かでない。	ニーズに応じて行っていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	契約時や面談時に意向を確認し、個別支援計画に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画を説明しながら同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	行っている（つもりである）。	相談者に偏りがあるので、他の保護者からの相談もあるかと思うので間口を広げていきたい。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者会は年1回行っている。兄弟同士の交流の機会は行っていない。	保護者会の参加者を多くしていくよう工夫していきたい。兄弟の交流はニーズがあるのかを調査して、必要ならば行っていく（今のところ、必要と答える保護者は少ない）。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情には迅速かつ誠実に対応している（つもりである）。	苦情を言っていたくのはとても有難いので、風通しの良い事業所を目指していきたい。また、丁寧に対応していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月の「デイ通信」の発行、HPへの掲載を行っている。	今後は、「毎月のプログラム」もHPに掲載していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	契約時に、「個人情報同意書」「通信や展示作品への個人名の掲載の同意書」をいただいている。	「通信や展示作品への個人名の掲載の同意書」は、契約時のみならず年度当初毎年いただくようにする。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	発語のない利用者には、絵カードや写真、ジェスチャーを使ったりしている。	外国の保護者な場合、言葉がうまく伝わらないことが多々あり、課題になっている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	毎年『はくらのアート展』を開催し、絵画や工作等を通して交流を図ったり、久喜市等のイベントに参加している。コロナ前は、地域交流イベント「X'mas会」に招待していた。	また、以前のように地域交流イベントを開催し、地域の方を招待したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルは全て作成し、訓練も行っている。また、面談時に保護者に「避難場所の確認と経路」「災害時訓練計画」の説明はしている。	一部のマニュアルに関しては、周知徹底がされてないので、全マニュアル周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	業務継続計画（BCP）を策定し、研修・訓練も行っている。	通信機能が使えないときの判断を考える必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	服薬同意書をいただき、てんかん等の薬を預かっている。また、てんかん時等の対応の仕方や救命救急講座を実施している。	予防接種の確認は、今後の課題としたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アセスメントの中で保護者から詳細をお聞きし対応している。医師の指示書はいただいている。	今後は、医師の指示書をいただくことを検討していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画書は作成し、研修・訓練を行っている。	カメラ設置等、防犯対策にも今後は力を入れていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	安全計画書をマニュアルファイルに綴じ込み、いつでも閲覧できるように入口に置いている。	面談時に、保護者に安全計画・取り組みをお話し、連携を得られるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットは3日以内に提出して、ミーティングやかのん会議で再発防止について話し合っている。	ちょっとしたことで気づいたことは、全員がヒヤリハットや気づきシートに書くよう徹底していきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	ディ合同会議でのミニ研修、外部講師による全体研修、県の動画研修、久喜市の研修等の機会を確保している。	全体研修への参加率を100%にしたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	かのん会議→身体拘束適正化委員会 で話し合っ、保護者の同意書をいただき個別支援計画書に記載している。	身体拘束は最後の手段なので、そうならない支援方法を考えていきたい。